

06.

中国

中国地方会

春間 賢

(川崎医科大学消化管内科学)

中国地方会は、昭和48年2月、当時の愛媛県十全総合病院産婦人科部長 小林純郎先生を会長として、中国四国超音波医学研究会として松山市開催されたのが第1回となる。その後、平成3年8月31日に開催された第26回中国四国超音波研究会(会長 岡山大学循環器内科教授 原岡昭一先生、岡山市)を最後に、中国地区と四国地区に分離され、日本超音波医学会中国地方会として新たにスタートした。中国四国合同の最後の研究会となった第26回中国四国超音波医学(会長 岡山大学循環器内科 原岡昭一先生)は岡山市で開催され、抄録集は「第26回中国四国超音波医学研究会抄録集並びに閉会記念誌」として作成されている(図1)。中国四国超音波医学研究会は年2回開催され、昭和53年まで続いた。研究会の創設期には産婦人科の先生方が中心となり、その後循

環器領域、さらに、泌尿器、消化器領域と参加者、発表演題も増加していった。その後、年1回の開催となり、中四国分離後、日本超音波医学会の中国地方会となり、名称変更後の第1回にあたる学術集会は、平成4年2月14日、第27回日本超音波医学会中国地方会として、岡山の地で、岡山大学産科婦人科 関場香先生会長のもと開催された。入手できている記録では、一般演題6題、参加者100名と記載されている。その後、発表演題、参加者とも増加し、昨年岡山市で開催された、平成23年9月10日の第47回学術集会(会長 岡山大学消化器・肝臓感染症内科 山本和秀先生)では、一般演題65、参加者は335名であった。本年度48回学術集会は、9月8日に、広島市にて、広島大学循環器内科 木原康樹会長のもと開催される。過去の学術集会の開催地、一般演題数、参加者数を図2に示す。最近では一般演題数も30を超え、参加者も300名前後となっている。

この間、昭和50年より研究会の初代会長として岡山大学 関場香先生が就任され、その後、平成4年より名称が運営委員長となり岡山大学循環器内科 原岡昭一先生が、平成6年より岡山大学産科婦人科 工藤尚文先生、そして、平成16年4月より、私が仕事を引き継いでいる。急遽事務局を引き継ぐことになったので、資料の整理や会員の把握に苦勞したが、なんとか整理を終えることが出来、新体制で運営を行っている。残念ながら、会員数は1000名前後を推移し、増加していない(図3)。昨年度の会員数は1006名(正会員605名、準会員401名)であった。平成21年の第45回学



図1

術集会より奨励賞を設け、会の活性化を図っている。中国地方では、川崎医科大学内視鏡・超音波センター教授 畠二郎先生の貢献が大きき、かなりレベルの高い発表や討論が行われている。

超音波は消化器、循環器、産婦人科、乳腺・甲状腺、腎・泌尿器、小児科など多領域にわたり用いられているので、出来るだけ多くの分野の先

生方に会長を務めて頂き、会を発展させていきたいと考えている。また、超音波検査は聴診器に近い診断手技となりつつあるので、プライマリケアでの超音波診断の重要性を若い先生方にアピールし、会員の先生方と新たな診断学を構築するとともに、超音波医学会の会員の増加、さらに活性化に向け、さらに活動していきたいと考えている。

図2 参加者と一般演題数

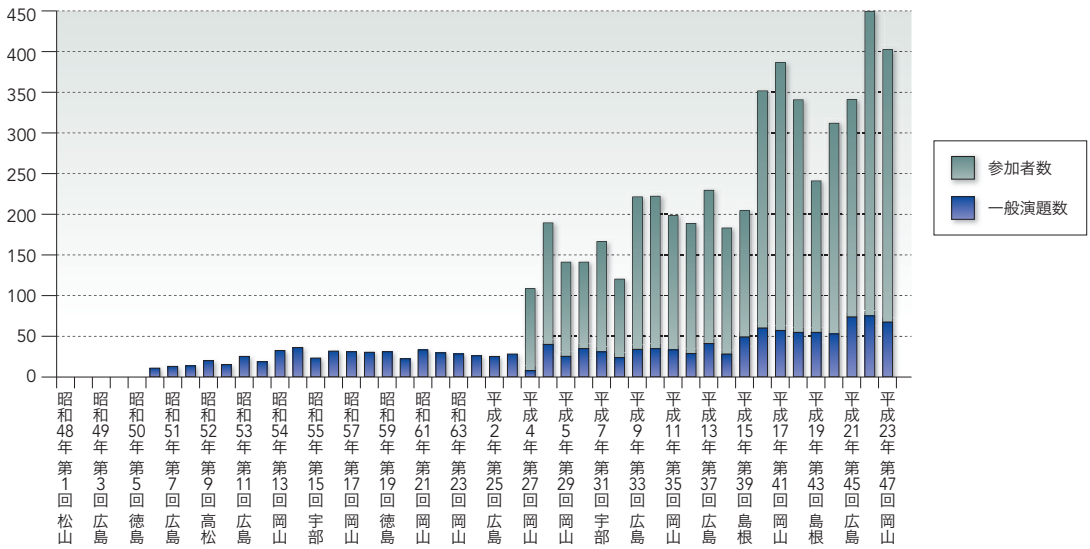


図3 会員数

